

第2版はしがき

本書は、企業法の入門書である。企業の組織と取引に関する複雑な法規制の全体を「企業法」という枠組みでとらえ、少ない頁数で、平易・簡潔に解説したものである。そのため、内容の重要性に応じて、「企業法の基礎」、「企業取引法」および「株式会社法」の3部に分けている。執筆に際しては、第1に、現代企業の組織や取引の実態とも関連せしめて、内容が平板に陥らないように注意し、第2に、株式会社に関する法規制を重視し、第3に、最少限度の重要な判例を紹介するとともに、限られた頁数の中にあっても、理論および実務上の重要な論点を理解できるように配慮している。

本書は、法律文化社の現代法双書として公刊されていた『新現代商法入門』（蓮井良憲・平田伊和男編）の後継書である。本書に、企業法の入門書としてみるべきものがあるとするれば、それは同書の長所を継承したことのほか、各執筆者の努力に帰すべきである。他方、全体を通じて思わざる重複や不統一があるとするれば、編者の責というほかないが、その不備なところは、逐次改めていきたいと思っている。本書が、少ない時間で企業法について講義する場合のテキストとして利用され、また、一通り企業法を勉強した人の整理のための参考書として役立つならば、幸いである。

なお、この第2版は、平成27年5月1日に施行された平成26年会社法改正を盛り込んで改訂したものである。

本書が成るについては、テキストとしての性質上、逐一文献を引用していないが、多くの先学の貴重な研究に依存するところが大きい。また、本書の企画、各執筆者との連絡、原稿の取りまとめ等については、法律文化社の梶原有美子氏の援助に負うところが多い。記して、心から感謝の意を表すこととする。

平成28年3月

西山 芳喜

はしがき (旧 版)

本書は、企業法の入門書である。企業の組織と取引に関する複雑な法規制の全体を「企業法」という枠組みでとらえ、少ない頁数で、平易・簡潔に解説したものである。そのため、内容の重要性に応じて、「企業法の基礎」、「企業取引法」および「株式会社法」の3部に分けている。執筆に際しては、第1に、現代企業の組織や取引の実態とも関連せしめて、内容が平板に陥らないように注意し、第2に、株式会社に関する法規制を重視し、第3に、最少限度の重要な判例を紹介するとともに、限られた頁数の中にあっても、理論および実務上の重要な論点を理解できるように配慮している。

本書は、法律文化社の現代法双書として公刊されていた『新現代商法入門』（蓮井良憲・平田伊和男編）の後継書である。本書に、企業法の入門書としてみるべきものがあるとすれば、それは同書の長所を継承したことのほか、各執筆者の努力に帰すべきである。他方、全体を通じて思わざる重複や不統一があるとすれば、編者の責というほかないが、その不備なところは、逐次改めていきたいと思っている。本書が、少ない時間で企業法について講義する場合のテキストとして利用され、また、一通り企業法を勉強した人の整理のための参考書として役立つならば、幸いである。

本書が成るについては、テキストとしての性質上、逐一文献を引用していないが、多くの先学の貴重な研究に依存するところが大きい。また、本書の企画、各執筆者との連絡、原稿の取りまとめ等については、法律文化社の秋山泰氏の援助に負うところが多い。記して、心から感謝の意を表すこととする。

平成24年12月

西山 芳喜